

標茶町立標茶小学校 フィールド学習 2 回目 実施内容

《概要》

[日程] 2021 年 10 月 14 日 (木)

[参加者] 5 年生児童 50 名

[案内] 環境省 瀧口自然保護官

山本、安田、加藤 (公益財団法人 北海道環境財団)

[フィールド学習の目的]

- ・各児童の課題に応じて、目的を持ってフィールドでの観察、試料採集等を行う。
- ・これまでの学習を通して得た自然を見る目を持って、自然を観察し、新たな発見を得る。

[実施プログラムの概要]

9:35 達古武オートキャンプ場到着

9:40 オリエンテーション

9:50 2 グループに分かれてフィールドでの活動

11:45 フィールド学習終了

《実施内容 (記録)》

■オリエンテーション (9:40)

○挨拶 (環境省 瀧口自然保護官)

前回来てもらったのが 7 月。それぞれテーマを決めてきていると聞いている。それぞれ決めたテーマについて観察したり、調べたいものを持って帰りたいということがあると思う。安全に気を付けて、それぞれの研究を進めてもらいたい。



○スケジュールの確認、各グループ引率スタッフの紹介 (北海道環境財団 山本)

■2 グループに分かれてフィールドでの活動 (9:45)

《湖グループ》

○湖畔 (カヌーポート)

今年できたヒシの実が多く打ち上げられている。湖に入っていくと足元から泡が立ち児童が興味を持つ。また、油のような油膜があり汚れていると児童の声。湿原の中でもこうした油を見たことがあること、人があまり入らない場所でも人が汚した油があ



るのだろうか」と問いかける。（魚の油、ヒシの実の油、植物の油、シカのおしっこなどの声が挙がる）人が出したものではないことを伝え、興味がある人は調べて欲しいと伝える。それぞれが落ちているものを観察した後、場所を移動。

○湖畔（西の沢河口）

それぞれの児童が長靴の丈が許す深さまで湖に入り、ヒシやその他の水草、魚や虫などの生き物、湖の底の様子、落ちているものなどを観察する。ある児童は達古武湖の全てのヒシの実を数を調べるため、単位面積（長さ）に打ち上げられたヒシの実の数を数える。また、湖の土、森の土、湿原の土を比べるために土を少し採集したり、魚の捕獲を試みる児童など、それぞれが湖畔での時間を過ごす。



《遊歩道グループ》

○湧き水の流れが確認できる場所

遊歩道を10分程歩き、丘から湧き水が確認できる場所で観察等を行う。湧き水をテーマとした児童は、砂層からしたたる湧き水の採集を試みるが、地面が不安定なためスタッフが採水する横で話を聞きながら湧き水の様子を観察する。遊歩道から湖側に少し下った場所で、ヤチボウズや泥炭、キノコ、土壌の様子など、それぞれのテーマに応じたものを観察し、許可を得た試料などを採集する。



○オートキャンプ場横の白樺の凍裂

凍裂をテーマとした数名の児童は遊歩道では凍裂した木を確認できなかったことから、オートキャンプ場横の凍裂したシラカバまで戻り、亀裂の長さ、深さ、その様子などを観察する。



■オートキャンプ場センターハウス到着・フィールド学習終了（11：50）